Bungei Issue

THE BUNGEI NEWS

December 22th, 2025

第5回文化芸術発表会

私たちの「響彩」が体育館を揺らした日

When Our "Kyosai" Painted the Gym with Sound

急転、熱気で染まる体育館

令和7年12月16日。本来ならホールの舞台に立つはずだった私たちは、学校の体育館にいた。予定外の会場変更、予想以上の厳しい冷え込み。最初は「足がめちゃくちゃ寒い！」という戸惑いの声もあがっていた。しかし、スローガン「響彩～響け　colorus～（コルラス）」に込められた、１人ひとりの色を響かせるという思いは、会場が変わっても揺るぎはしなかった。これは、半年にわたる準備のすべてを懸けた、濃密な半日の記録だ。

ステージの様子（写真は３年Ｂ組合唱）

【合唱部門】
葛藤の末に掴む、真の響き

文化芸術発表会（以下、文芸）の幕開けを飾ったのは、各クラスが今日まで練習を重ねてきた合唱だ。体育館特有の響きの中で、私たちの声が重なり合った。

１年生：初めての文芸。「本番を想定した練習」の成果を見事出し切り、客席から大きな拍手をもらった瞬間の、ほっとした笑顔が印象的だった。

２年生：パートリーダーが「集団をまとめる難しさ」に直面しながらも、試行錯誤の末にクラスを１つにまとめ上げた。練習を重ねるごとに歌が上手くなっていく「一体感」が何よりの宝物になった。

３年生：さすがの貫録。互いに正直なアドバイスを送り合い、高め合うストイックな姿勢。圧倒的な歌声には、下級生から「やっぱり３年生はすごい」と溜息が漏れた。

フロアの様子（写真は全体合唱）

【有志部門】
日常を脱ぎ捨て、躍動する瞬間

放課後セステット：バンド演奏が響いた瞬間、体育館は生徒の歓声が弾ける最高潮のライブ会場へと変貌した。

ダンス：剣道部やバスケ部によるキレのある動き。普段の部活とは違う表情とステップに、客席からは大きな歓声が上がった。

クイズ：文芸初の観客参加型企画「クイズ軍団を打ち倒せ！」。全校生徒が一体となって挑み、正解のたびに笑顔が弾けた。

【作品展示コーナー】
個性豊かな附属中生の才能が開花

ステージ発表の余韻の中、会場の後方に目を向けると、そこにはもう１つの「彩り」があった。美術作品をはじめとする、有志による「展示作品」だ。展示部門による工夫溢れる設営により、１つひとつの個性が際立っていた。 足を止めた生徒から、「あいつこんな才能があったのか」、「細部まで作り込まれていてすごい」など驚きの声が上がり、ステージ上とはまた違う、静かな情熱が体育館を彩っていた。

【部活動部門】
響き合う個性、努力の結晶

合唱部：「僕のこと」「春」の２曲を披露。繊細かつ重厚な調べで会場を魅了した。

科学部：「霞ヶ浦×Natto-Power」という斬新な視点での研究発表。独創的な発想に、会場からは感心の声が上がった。

英語スピーチ：ステージには計５名のプレゼンターが登場。プレゼンや弁論が披露された。流暢な英語と、身振り手振りを交えた表現力に、客席の誰もが言葉を超えたメッセージを受け取っていた。

吹奏楽部：文芸のトリを飾る大迫力の演奏。先生の指揮と生徒の音が共鳴し、ボルテージは最高潮に達した。

【閉会式】
世界へ響け、心を繋ぐ全体合唱

プログラムの最後を飾ったのは、全員で歌う「We Are the World」。上甲英恋さんの指揮、前田眞秀さんの伴奏により前奏が始まると、体育館の空気が１つに溶け合った。学年の枠を超え、保護者や先生方も含めた、全員の歌声が響き渡り、文芸は幕を閉じた。

おわりに

確かに寒かった体育館。でも、終わってみれば「やり切る気持ちよさ」と「仲間との絆」という、温かな宝物が残っていた。一人ひとりの「color」が混ざり合い、最高の「chorus」となった令和７年度の文化芸術発表会。幕は閉じても、私たちの心にはいつまでも色褪せない「響彩」が鳴り響いている。

［THE BUNGEI NEWS 制作クレジット］
出典：第5回文化芸術発表会しおり、細案、振り返りアンケート結果
制作：生成AI ＋ 文芸実行委員会広報部門（共同編纂）